

●【京都文化体験7】高僧の直筆揮毫色紙贈呈

京都仏教会様の御協力により、京都の文化財保護のため御寄附いただいた方の篤志に感謝をこめて、府内寺院の高僧の皆さんが色紙に揮毫されます。雄渾かつ奥深い書の文化に触れていただける墨跡豊かで貴重な直筆色紙を贈呈します。



※現在贈呈している色紙に揮毫いただいた高僧の皆様【敬称略・五十音順・令和5年11月現在】

・臨済宗相国寺派管長	有馬 頼底	・前浄土宗西山禅林寺派管長・禅林寺法主	中西 玄禮
・真言宗泉涌寺派管長・泉涌寺長老	上村 貞郎	・臨済宗東福寺派管長	原田 融道
・前真言宗大覚寺派管長・大覚寺門跡	黒沢 全紹	・青蓮院門跡門主	東伏見 慈晃
・臨済宗建仁寺派管長	小堀 泰巖	・前三千院門跡門主	堀澤 祖門
・黄檗宗管長・萬福寺住職	近藤 博道	・前西山浄土宗管長・光明寺法主	堀本 賢順
・臨済宗天龍寺派管長	佐々木 容道	・前浄土宗大本山清浄華院法主	真野 龍海
・前東寺真言宗管長・教王護国寺長者	砂原 秀遍	・本山修験宗管長・聖護院門跡門主	宮城 泰年
・真言宗御室派管長・仁和寺門跡	瀬川 大秀	・北法相宗管長 清水寺貫主	森 清範
・日蓮宗本山本法寺貫首	瀬川 日照		
・真言宗醍醐派管長・醍醐寺座主	仲田 順和		

※このほか、これまでに神護寺様、善光寺様、知恩院様、智積院様、平等院様、妙心寺様、妙蓮寺様、南禅寺様に御協力いただいております。(五十音順)

「文化財を守り伝える京都府基金」への御寄附の方法等について

御寄附をお考えの方々へ

御寄附いただいた額に応じ、本誌で紹介している「京都文化体験」に御招待しています。

寄附額	提供する京都文化体験 (令和5年10月現在)
1万円以上	祇園祭山鉾搭乗、清水寺夜間特別拝観、知恩院ライトアップ、大河内山荘特別観覧、京都文化博物館特別展内覧会等のいずれか1つ
2万円以上	フタバアオイオーナー・葵祭特別観覧、緑陰講座のいずれか1つもしくは、1万円以上の文化体験のいずれかを2つ
3万円以上	1万円以上の文化体験のいずれかを4つ
5万円以上	高僧の直筆揮毫色紙贈呈に加え、1万円以上の文化体験のうちお好きな1つにペアで御招待
10万円以上	高僧の直筆揮毫色紙贈呈に加え、1万円以上の文化体験の全てに1年間ペアで御招待

【京都府内に住民票を有する方への注意事項】

京都府内に住民票を有する方には、ふるさと納税の返礼としての文化体験の提供が法律上できませんことを御了承ください。

なお、文化財や文化観光に関する情報を「文化財を守り伝える京都府基金ネットワーク」から情報提供させていただくために、氏名・住所・E-mail アドレス・電話番号を提供することについて、御了承いただきますようお願いいたします。

氏名・住所・E-mail アドレス、電話番号の提供を御了承いただけない方は御連絡ください。

御寄附の方法

① ふるさと納税サイトからのお申込み

- ①ふるさとチョイス
- ②ANA のふるさと納税
- ③セゾンのふるさと納税
- ④auPAY ふるさと納税



※クレジットカード・電子マネーによる支払い等を選択いただけます。

② 寄附申込書、FAX、電子メール、郵送でのお申込み

御寄附いただける旨と、お名前(読み仮名)・住所・連絡先を右記までお知らせください。後日、納付書を郵送いたしますので、お近くの金融機関で払い込みをお願いいたします。



寄附申込書はこちらのQRコードをご利用ください

※御利用いただける銀行は、京都・南都・みずほ・三井住友・りそな・三菱UFJ・滋賀・北陸・関西みらい・福邦・徳島大正・福井・北国・但馬・池田泉州・みずほ信託の各銀行です(令和5年4月)。

【ふるさと納税制度について】

皆様が「応援したい、協力したい」とお考えの地方公共団体に寄附をされた場合に、個人住民税や所得税の税額控除が受けられる制度です。寄附金のうち、2千円を超える分について、個人住民税所得割額の概ね2割を上限に、所得税と個人住民税から全額が控除されます。

控除を受けるには、原則として確定申告をする必要がありますが、以下の条件を満たす方については、ふるさと納税の「ワンストップ特例制度」が利用できます(確定申告不要)

- 確定申告や住民税申告を行わない給与所得者、年金所得者であること
- ワンストップ特例申請書を京都府に提出すること

●寄附のお申込み、お問合せ

京都府文化生活部文化政策室

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入数ノ内町

TEL: 075-414-4521 / FAX: 075-414-4223

Eメール: bunsei@pref.kyoto.lg.jp



※文化財を守り伝える京都府基金の取組を全国に向けて発信することを目的に、ふるさと納税専門誌「ふるさとニッポン」に掲載しました。また、当専門誌が運営するWEBサイトでも掲載されています。今後、基金を広く周知する取組を展開していきます。

WEBサイトはこちらのQRコードからご覧いただけます。

